

日本学術会議公開シンポジウム 長期の温室効果ガス 大幅排出削減に向けた イノベーションの役割と課題

2019年6月6日(木) 13:00 ~ 17:30

会場：日本学術会議 講堂（東京都港区六本木 7-22-34）

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口すぐ

参加費：無料（先着順 定員 300名、事前申込不要 *入場時にお名刺またはご記憶いただきます）

開催趣旨

2015年パリで開催された第21回国連気候変動枠組条約締約国会議（COP21）において、2020年以降の気候変動対応の国際枠組みとなるパリ協定が合意され、翌2016年に発効しました。パリ協定では、全球平均気温上昇を産業革命以前比で 2°C 未満に十分に抑える、また 1.5°C 未満も追求する、さらには21世紀後半に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、などの目標も合意されました。そして、2020年までに自国の「長期低排出発展戦略」を作成・提出することが定められました。2018年には気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の1.5度特別報告書が公表され、またCOP24においてはパリ協定実施のための詳細ルールの合意がなされました。しかし、 2°C や 1.5°C 目標と今後の排出動向とは大きなギャップが存在しているとされており、イノベーションの必要性については大きな異論がない状況です。しかし、そのイノベーションの中身やそれを促すための政策等是不透明であり、一方、様々な技術的、経済的、社会的制約も存在しています。2019年は我が国はG20の議長国でもあり、大幅な排出削減に向けた国際的な取り組みを後押ししていくことも求められています。本公開シンポジウムでは、世界レベルでの温室効果ガス排出の大幅削減に向けてイノベーションが果たす具体的な役割、限界、そして政策のあり方等について議論を行い、大幅排出削減に向けた具体的な道筋を、従来よりも明確にすることを目的に開催します。

13:00 開会あいさつ

鈴置 保雄（日本学術会議第三部会員、愛知工業大学工学部教授、名古屋大学名誉教授）

13:05 「長期大幅排出削減に関する動向と議論の方向性」（課題提起）

山地 憲治（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構理事・研究所長、東京大学名誉教授）

13:35 「長期地球温暖化抑制におけるイノベーションの役割」

杉山 大志（一般財団法人キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹）

14:05 「人工知能による需要予測の進展と更なる可能性」

曾我部 完（株式会社グリッド 代表取締役）

14:35 「再エネ拡大下における電力系統の安定化対策の課題と機会」

中山 寿美枝（電源開発株式会社 経営企画部/火力発電部 審議役）

15:05 「IoT, AI 技術進展による低エネルギー需要社会実現によるパリ協定長期目標へのインパクト」

秋元 圭吾（日本学術会議連携会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー）

15:35 休憩

15:50 総合討論

司会：山地 憲治、コメンテーター：秋元圭吾、木村 幸（一般財団法人電力中央研究所 社会経済研究所 上席研究員）、杉山大志、曾我部 完、中山寿美枝

17:20 閉会

主催：日本学術会議 総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会

共催：一般社団法人エネルギー・資源学会（予定）

後援：一般社団法人日本エネルギー学会、他（予定）

問合せ先：公益財団法人地球環境産業技術研究機構 秋元圭吾 E-mail: aki@rite.or.jp